



天使

天使大学大学院 開学にあたつて

天使大学大学院 開設によせて 医療法人社団カレスアライアンス 天使病院 病院長 藤本 征一郎

2003年7月17日の新聞で、天使大学が国内では初めての専門職大学院として助産専攻を開設するための設置申請を行ったことが報道され、実習病院の1つである天使病院の管理者として私は、松宮英視理事長、近藤潤子学長をはじめ、多くの教職員の皆様のそれまでの真摯なご努力に感激し、また同年8月25日開催の新校舎(8号館)の新築工事祝別式に参列しました時には自身の新しい責任を明るく自覚しました。

看護教育が4年制大学を中心に行われるようになり、助産師教育カリキュラムの過密化、実施の困難性と教育効果などについての諸問題が残り、その結果として助産師を志望する学生数が減少し、わが国の将来における周産期医療、子育て支援、性教育プログラム、女性のリプロダクティブ・ヘルスの増進など、今後の「母と子」の福祉と健康の向上に不安を隠しきれません。実践的専門職として社会に広く奉職する医療人により構築される「母と子」のための医療・福祉のサービス提供体制の崩壊が助産師数の減少、助産師教育の後退化からも心配されております。

本年4月に大学院助産研究科(近藤潤子研究科長)が開設され、全国各地より27名の強い決意をもった1回生を迎えることは、わが国の助産師教育に輝かしい歴史の第1ページを置くことになります。

天使大学大学院の誕生秘話

大学院助産研究科教授 柳原 真知子

助産師教育課程の新たな設置を「誕生」にメタファーすると、私は2度出産に立ち会ったことになります。1度目は前任校で学部に助産師課程を開設しました。この出産は、経産婦ということもあり準備もたいして必要なく安産でした。しかし、2度目の天使大学大学院は、初産婦で「超」難産でした。文部科学省から何度も申請書類の修正を求められ、時には某団体から出産に反対する圧力ありと、出産は無理かと思う時がありました。

しかし、近藤潤子学長の“待てば必ず生まれます”的確固たる信念に励まされ、天使大学大学院は誕生しました。誕生後、当大学院は、直接分娩に立ち会った人だけではなく、分娩室の外で声援を送っていた多くの人々があり、その人たちの祈りによって支えられていたことを知りました。また、近藤学

した。私も講義を早速担当しており、元気に学生たちと交流しております。「エビデンスに基づく助産実践展開に必要な専門知識と技術を習得する」を学習目標の1つに据える学生たちと理論と実践をつなぐ双向教育を目指す教官とが一丸となって、新しい助産師の将来に北方から光をあて続けることになるでしょう。

かねてより、私は産婦人科外来診療に助産師による「助産師外来」と病棟に「助産師病室」を設置することを考えおりました。自立して病院内あるいは地域で助産活動が展開され、周産期医療と女性医学全般の「正常あるいは自然」の範囲内の諸問題が自立的助産師の認識の中で解決されていくことを望んでおります。医師による病院周産期医療は先進的にして受療者に安心してもらえる医療技術に裏打ちされ、そして助産師による家庭的周産期医療は心の安らぎと専門技術の提供に裏打ちされていなければなりません。これらの二分野が有機的に結合し、融合しあって周産期医療のケアミックスが成立すると思われます。「病院内家庭分娩」に代表される周産期管理を中心に学習が進行し、新型の地域周産期ネットワークの構築を通じて、「地域内自然分娩」が展開されることを期待したいと思います。

実習病院の1つである天使病院では近い将来の完成を目指して、病院増改築計画が進行しており、天使大学・天使病院学生教育実習協議会が両組織よりそれぞれ委員を出して去る6月に設立されました。天使大学(3科)の学生教育・実習環境の整備などに関する協議が行われます。

天使大学大学院助産研究科の開設を寿ぎ、新しい型の助産師教育の出発に胸中躍動を感じて、ごあいさつにかえさせていただきます。

長の幅広い人脈と人力が、影にあったからこそ、誕生を可能にしたと思います。

専門職である助産師の教育は、大学院ですべきであることは、アメリカ等先進国で実証済みであり、疑問の余地をはさむすきはありません。しかし、助産師の専門職大学院は日本では初めてであり、国内でモデルとなるもののがありません。そのような中で教育内容や教育方法のさらなる充実を図っていかなければなりません。新しい大学院創立に対して教員はフロンティア精神にみなぎっています。こうした思いに呼応するかのように文部科学省の「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」に当大学院の教育プロジェクトが採用され補助金がつきました。誕生した当大学院をよりよく育てるため、まだまだ努力は続きます。

今、1回生として27名の大学院生がいます。期待のプレッシャーを背負いつつ、学びの炎を熱く燃やしています。1回生として、天使大学大学院の歴史を形づくる第1歩を歩み始めています。自律して地域で、世界で活躍できる助産師になってくれると期待しています。いずれは、教員を乗り越え新しい教育を発展させていってくれるでしょう。

発行
天使大学 広報委員会
〒065-0013
札幌市東区北13条東3丁目
TEL 011-741-1051(代)
FAX 011-741-1077
<http://www.tenshi.ac.jp>

大学院に入学して

大学院助産研究科1年 大和 小織

私たち1回生がこの大学院に入学して、早いもので6ヶ月が過ぎようとしています。北は北海道から、南は九州・沖縄まで、全国各地から同じ夢を持った仲間たちがここに集まっています。入学する前は、それぞれが新しい仲間との出会いや新しい地域での生活、新しい環境での学びに不安や期待を抱えていたと思います。しかし、今は不安な気持ちは消え、同じ夢を持つ仲間と学ぶ喜びでいっぱいです。その中で、短期間ではありながらも、同期生全員が支え合い、助け合いながら、忙しい日々を乗り越え、仲間との絆も深まってきたように感じます。よく私たちの間で「まだ入学して少しの期間しか経っていないのに、ずっとこれから一緒にいる気がするよね」というような言葉が聞かれます。入学してからのこの6ヶ月で充実した講義、色々なテーマで行われるグループワーク、膨大な課題、友人づくりと、充実した時間を過ごしてきたことが、この言葉の中には表れているのではないでしょうか。

講義もEBPM(根拠に基づいた実践)に重点を置き、WHOの59か条『お産のケア実践ガイド』の根拠を明らかにしたり、教員の一方的な講義を受けるのではなく、大学院生が考え、答えを導き出すような授業展開の中で、大学との違いを感じています。また、このような講義を通して、大学の時の受け身だった姿勢は消え、今は勉学に対して、主体的に取り組む姿勢に変わりました。そして今は実習を通して、今まで講義や演習で学んできたことを、一つひとつ確認しながら、実践している最中です。

これからの2年間、実習での妊娠婦の方との出会い、児との出会い、そして助産師としての先輩にあたる実習先の指導者、教員との出会いから得る学びを大切にしながら、自らの進むべき方向性を見つけていきたいと思います。また、この大学院に入学して出会った仲間との関係を大切にし、卒業まで充実した時を過ごしていきたいと思います。

助産師のための専門職大学院に 入学して

大学院助産研究科1年 佐藤 香織

専門職大学院の話題が昨年秋ごろ新聞に載り、興味を持ち、今日に至りました。日本初の助産師のための専門職大学院ということで、どんな大学院なのか、どんなカリキュラムなのかと大変興味がわく反面、今までにない形態の大学院であり情報も少なく不安も大ききました。しかし実際に入学すると、学長をはじめ諸先生たちの助産師教育への熱い思いや教育理念を感じることができます。先生方が学んできたことを一生懸命伝えてくれることで、専門技術職としてのあり方、技術を裏付ける理論、物事には世の中の流れや政治も絡んでいること、自分の考えをしっかり持つことを学んでいる途中であります。

1回生として27人の仲間がいます。地元である北海道の出身や南は沖縄からこの天使大学大学院に入学してきました。出身や経験・年齢も違いますが、それが助産師として活躍したいとの強い強い思いを持ち、学び合っています。27人27様の個性を持ち、お互い強い影響力を与え合っています。私自身、病院の現場で数年働いてこの大学院に入学しました。仕事とは違うお互いが「同じ学生」として同じ目線で勉強し合うことができます。同じ立場であるからこそ、お互いの長所も短所もストレートに表現して、どう変えたらより良くなるのかと工夫を重ねています。1回生として先生方や実習先での期待も大きく戸惑いもある反面、自分たちが学びたいことはどんな事かと思い返す機会にもなっています。

現在さまざまな実習病院で現場の技術を学んでいます。自分たちが学習した論文や資料からの知識が病院の中ではどのように行われているのか、自分は妊娠婦さんたちにどう援助できるのかを考え実践し、模索している段階です。それぞれの実習先での援助を通じ、意見交換していますが、それぞれの思考過程が違い、さまざまな視点から考えることができるため、とても良い刺激になっています。刺激があることで、自分が目指す助産師のイメージがより鮮明なものになっています。専門学校での助産師の学習は1年コースが多い中で、大学院では2年学ぶことができます。病院のみならず全国の助産院にも長期に実習に行き、地域に根ざした活動をしている現役の助産師から学ぶチャンスもあります。将来への夢が広がり大変楽しみにしています。

大学院開学記念植樹式典

さる5月17日(月)13時より、
天使大学大学院助産研究科開
学を記念して天使病院よりい
ただいた「もみの木」の植樹式
典が北13条通りに面した学内
の一角で執り行なわれました。
この「もみの木」は、クリス
マスツリーとして、季節に彩
りを添えながら、大学・大学院
の発展とともにその幹をより
強固にしていくことでしょう。



就職してがんばっています！

天使大学1回生が卒業して半年が過ぎました。ここぞしをもって社会に出て、半年が過ぎました。ときに悩みながら、考えながら、そして社会のさまざまな場所で支えあい、励ましあいながら、頑張っています。

たくましく、しなやかに頑張っている卒業生たちの近況をお伝えします。

大学を卒業して

東京慈恵医科大学附属第三病院 諸沢 美穂

天使大学を卒業して、もう6ヶ月が経ちます。私は初めて親元を離れて東京の病院で働いています。が、ここまで本当に大変でした。初めての一人暮らし、初めての就職(社会人)、初めての土地……本当に本当に苦労していました。仕事で疲れて帰っても家事などは自分でやらなければならぬし、家に帰っても誰もいないということが今まで実家にいた時にはあまりなかったので、寂しさもありました。しかしこれは慣れですね！今はだいぶ慣れてきて、テレビとコンビニは大の仲良しです(笑)。……というのもありますが、天使の同期もかなり多く関東地域に来たので、よく同期の友だとも遊んで愚痴など言い合いながら楽しく過ごしています。

ところで、私は「働く」というのがここまで大変だと思っていませんでした。病棟は脳外科、形成外科、内科とともに忙しい混合病棟です。知識の足りなさに愕然とする毎日です。また、人が亡くなること、脳死状態の方、末期の方、とあらゆる現実を見せつけられている毎日です。私はそのたびにただ悲しくなるばかりでした。しかしある時、同じ病棟の先輩に、「ただ泣いているだけでは何のために看護師がいると思うの？私たちには患者さんやその家族にできることが何かあるはずだし、常にそれを考えていかなければならないと思っている」と言われました。私はそれまで毎日を何とかこなすのに必死だったのですが、そこで看護の深さややりがいみたいなものを感じたような気がしました。それまで先輩に質問されたり突っ込まれたりするのが怖かっただけなのが、先輩に言わることはそれだけ重要で私に足りないものなんだ、というふうに捉えることができるようになりました。そう考えるようになると、少しずつ働くということについて、ただ大変という思いだけではなくなっていました。

働きだして6ヶ月。まだまだわからないこと、大変なことは山ほどありますし、看護の楽しさ、喜びはそれほどわかっていないと思います。しかし、たくさんことを吸収していきたいと前向きに考えられるようになっていきます。これから、今まで以上に大変なこと、辛いことも増えてくるでしょうが、私らしく前向きに考えて頑張っていけたら、と思っています。

学 事 暦

9月6日(月)	後期授業開始
10月2日(土)	大学院 推薦入学試験
10月9日(土)	オープンキャンパス
10月16日(土)	看護学科 編入学Ⅰ期試験一般入学試験・編入学Ⅰ期試験社会人入学試験 大学院 一般入学試験(前期)・社会人入学試験(前期)
11月12日(金)	体育祭
11月13日(土)	推薦入学試験・社会人入学試験
11月20日(土)	栄養学科 編入学試験
11月26日(金)	戴帽式
12月8日(水)	創立記念日
12月16日(木)	クリスマスの集い・学生総会

学校栄養職員に就職して

札幌市立清田南小学校 栄養職員 東城 仁美

私が就職について考え始めたのは、4年生の夏休み頃でした。3年生のときに考え始めている人もいたので、私はかなり遅かったと思います。考えるきっかけになったのは、仲の良い友人が就職試験を受けたことでした。さすがに焦った私は、とりあえず札幌市職員の試験を受けました。就職試験に慣れるつもりで受けただけだったのですが、1次試験に合格してしまいました。せっかく1次試験に合格したのだから…と、2次試験はちょっとがんばり、最終合格者に残ることができました。さらに、小学校・中学校・保健センターなど、いろいろある中で、「子どもが好きだし、実習が楽しかったので小学校がいいな~」と思っていたら、小学校に配属になりました。これで一生分の運を使い果たしたと思っています。こんな感じで今の私がいるので、就職活動に関しては大層なことは言えません。ですから、ここからは、実際に働いてみての感想などを書くことにします。

栄養職員の仕事を一言で言うと、とにかく楽しいです。子どもに、「今日の給食全部食べたよ！」と言われたり、「今日の給食おいしかったよ！」と書いた手紙をもらったり、この仕事やっていてよかったな、と思えることがたくさんあります。

もちろん大変なこともあります。ご存知のとおり、学校に栄養士は1人しかいません。最初のうちは先輩の栄養士さんがついてくれると思っていたのですが、出勤初日から1人でした。何をやつたらいいのかよくわからないし、思い通りに仕事が進まないし、かなり思いつめていた時期もありました。また、働いてみて、まわりの人とのコミュニケーションがどんなに大切か、わかりました。調理員さんはもちろん、学校の教職員や子どもの保護者など、たくさんの人の協力があったからこそ、今の仕事を楽しいと思えるのだと思います。

今は、新採用者研修というものがたびたびあり、学校をあけることが多いため、安全でおいしい給食を出すという最低限のことしかできていません。しかし、少し落ち着いたら、教室やランチルームでの食に関する指導や掲示物(装飾)作り、給食週間のようなイベント的なものなど、できそうなことは何でもやるつもりです。

よくわからない文章になってしまいましたが、これを読んで、天使大学関係者の誰か1人でも、「こういう人もいるんだな~」と思ってもらえたなら、書いた意味があったと思います。最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

12月18日(土)	大学院 資格認定試験(後期)
12月20日(月)～1月10日	冬季休暇
1月15日(土)～16日(日)	大学入試センター試験
1月22日(土)	看護学科 編入学Ⅱ期試験
1月29日(土)	大学院 一般入学試験(後期)・社会人入学試験(後期)
2月6日(日)	学部両学科一般入学試験
2月7日(月)	一般入学試験(栄養学科面接)
2月14日(月)	ク(看護学科面接)
2月18日(金)	大学入試センター試験利用入学試験
3月14日(月)	卒業感謝ミサ
3月15日(火)	卒業証書・学位記授与式

就職してがんばっています！

NICU看護に携わって

医療法人社団カレスアライアンス 天使病院 嶋田 あゆみ

天使病院に就職し、6ヶ月が経ちました。未熟児・障害児看護に关心の高かった私は、念願のNICU（新生児集中治療室）に配属され、毎日小さな子どもたちに接することに喜びを感じています。

先輩の指導のもとに仕事を覚え、環境に慣れることで精いっぱいだった4月。初めての夜勤を体験した5月。3交替の不規則な生活に疲れながらも、ようやく余裕を持てるようになってきた6月。こうして振り返ってみると、毎日が慌ただしく、あっという間の日々でした。いろいろな経験をさせていただき、自分にできることが少しずつ増えているのをうれしく思います。

NICUは特殊なセクションのこともあり、勉強の日々です。学生時代とは違って、わからないことや新しいことは主体的に学習し知識を取り入れていかなければなりません。本当の意味での自己学習の必要性を痛感しています。

最近は一人で行うケアや技術も増えてきました。「裏付ける根拠があれば看護ケアは何でもできる」と先輩から助言を受け、数字にとらわれて物事を柔軟に考えることに欠けていた自分に気づかされました。状況を判断しケアを行うには責任が伴うことを再認識するとともに、広い視野を持ち自分にできることを見つけていきたいと感じています。

時間に追われる業務の中でも、面会に来たお母さんとじっくり話をする時間を大切にしたいと私は思っています。あまりの忙しさになかなか時間がとれず葛藤もありますが、お母さんと心が通い合ったと実感できた時、喜びはひとしおです。病んでいる患者さんだけでなく、家族の心もケアするのが看護だと私は思うのです。

小さく生まれた子どもが元気に成長して退院するのを見送った時、限りない力を感じる喜びの瞬間です。与えられた一つひとつのお会いを大切にしていきたいと思っています。人を大切にすること、そしてどんなことでも感謝を忘れないこと。天使大学で学んだこれらが私の中で今も生き続けています。これからもお会いを大切にし、目標をもって自分の看護を探し求めていきたいと思っています。

病院栄養士に就職して

医療法人社団愛心館 愛心メモリアル病院 相蘇 麻衣子

2004年3月15日に天使大学を無事卒業し、4月1日より、いよいよ社会人としての新たなスタートを切りました。私は、病院栄養士として勤務しています。社会人として、栄養士として働くことへの期待と不安が入り混じる中、最初は新入職員研修から始まりました。

研修は5日間のスケジュールで行われ、病院における接遇や自己啓発、病院職員としての心構えなど、最初から学び考えさせられるという、とても充実した内容でした。

新入職員は私の他に、看護師・薬剤師・ソーシャルワーカーがいて、研修も一緒に受けました。初めのうちは、みんなとうまく打ち解けられるかどうかすごく不安でした。しかし、研修の合間に1度、新入職員のみんなで飲みに行くという企画を持ち、それをきっかけにみんなの仲が深まったように感じます。職種は違っても、同じ職場で働く仲間としてこれから日々を過ごしていく中で、やはり、このように仲を深めていくということはとても大事なことだと感じました。

研修が終わると、いよいよ栄養課の業務に入りました。初めの1か月くらいは毎日緊張の連続で日々の業務を行ってきました。患者さんと接する時、笑顔で柔軟に接することができていたのは正直、よくわかりません。しかし日を追うごとに、緊張感を持ちながらも、患者さんと接する時には笑顔を忘れずに、というよりも笑顔が自然に出るようになったような気がしています。さらに食事に対する患者さんの要望に常に耳を傾け、対応していくように一層の注意力を持たなければと思っています。

そして、少しずつ栄養指導も行うようになりました。まさか私が栄養指導をするなんて……学生時代には想像もつきませんでした。実際、初めてお話しする患者さんの食生活などを聞きながら食事についてのアドバイスを見出すことはやはり難しいです。気難しい人だったらどうしようとか、ちゃんと話ができるだろうかななど、不安に思う時もあります。学生の時の実習とはやはり全然違います。働くということはそれだけ責任も大きく、とても深みがあります。

日々働いていく中で、失敗して悩んだり落ち込んだりすることもありますが、学生時代の親友、先輩や同期の仲間に助けられながら頑張っています。これからも、患者さんに的確な食事や食生活についてのサポートができるよう、また、栄養士として働く自分が好きでいられるように、常に努力を惜しまず精一杯頑張っていこうと思っています。

天使大学看護栄養学部 講演会

きる11月6日、本学を会場とした、
学部主催の講演会を開催いたします。

命へのまなざし ~こころ暖かな医療~

講 師 遠藤順子 氏 (NPO法人円ブリオ基金センター理事長)

日 時 2004年11月6日(土) 13:30~15:30 (受付開始13:00)

場 所 天使大学

参加費 無料(先着150名)

申込み方法 往復ハガキ、FAX、E-mailのいずれかにて、住所、氏名、電話番号を明記の上、申込みください。

申込み先 天使大学「生と死の看護ゼミ」係

〒065-0013 札幌市東区北13条東3丁目

FAX 011-741-1077 E-mail kan2004@tenshi.ac.jp

申込み期間 2004年10月29日(金)まで 問い合わせ先 天使大学 011-741-1051 (担当:総務課)

就職に向けた取り組み

2004年3月に初めての卒業生（1回生）を社会へ送り出しました。卒業生の就職状況については、すでに大学案内（学生募集パンフレット）や本学HPサイト（ホームページ）等で公表しておりますが、就職状況についての最新情報をここにお知らせいたします。

看護学科（卒業者数84名）では、就職・進学を希望する者（83名）のうち、就職決定者72名、進学決定者11名で、就職決定率は100%でした。就職決定者の内訳としては看護師65名、保健師7名でした。栄養学科（卒業者数92名）では、就職・進学を希望する者（92名）のうち、就職決定者90名、進学決定者1名で、就職決定率は99%です（2004年8月末段階）。就職決定者の内訳としては、栄養士・管理栄養士80名、栄養士職以外10名でした。

就職決定の内訳をみると、就職決定の特徴として、看護栄養学部という本学の特色を反映し、資格を生かした専門職への高い就職率をあげることができます。今後もこの特徴を堅持しながら、学生の就職希望に添いつつ、さまざまな就職先の開拓と就職の実績をあげるべく、就職に向けた柔軟な取り組みをしていきたいと考えています。

2004年度就職委員会活動報告

就職委員会委員長 白井 英子

今年度も「看護・栄養の専門知識を活かせる職場に100%の就職」を目指して就職活動の支援を強化しています。目標達成に向けて就職委員会では、1.学年進行に沿ったきめ細かな就職ガイダンスプログラム、2.各学科の教員による専門職業人としての職業選択、キャリアアップに向けた職業志向への指導、3.同窓会、後援会の協力によるサポート体制の基盤の拡大・強化を重視しています。

就職ガイダンスは、毎月いろいろなテーマで開催しています。6月には「職業選択の話」と題して職業の魅力について管理栄養

士、看護師・保健師として活躍している専門職の方々に、7月には同窓会との共催で「先輩の話」として「働くということの意味」について3年生を対象に熱いメッセージを後輩に語っています。また今年は就職相談室に職員を配置しましたので、就職情報が迅速に周知され、学生もタイムリーに相談できるようになりました。来年は、さらに就職相談室を充実していきたいと考えています。

2004年度の就職内定状況は（8月末現在）、栄養学科では既に24名、看護学科では1名が内定しております。両学科ともに専門職として力を発揮できる職場を求めて、学生たちの就職活動をサポートしております。

就職活動の支援

就職委員 山部 秀子

就職委員会では、就職活動を行う学生たちに対して、4年間の学生生活においてそれぞれの1年を通じさまざまなお手伝いやセミナーを企画し開催しています。そのなかで特に好評なものをひとつ紹介します。

さる9月16、17日の両日にわたり、「接遇マナー」をテーマにしたガイダンスを開催しました。参加対象者は栄養学科3年生。出席率は100%です。講師にお迎えした伊藤露子さん（（有）エスパス・マナー・アカデミー）は、まず始めによく通る声で自己紹介をされ、大きな声とリズムに、参加者は一瞬にして、伊藤先生のベースに巻き込まれ、講習が始まりました。発声練習や

敬語の使い方などの基本的なマナー、自己紹介の技法など、盛りだくさんの内容でした。講習は4時間にも及ぶものでしたが、活動的で実際的な内容に、参加者は飽きる暇もなく、多くのことを学び身につけることができました。

「接遇マナー」のガイダンス終了後に実施したアンケートでは、「貴重な体験をした」「笑顔の大切さを学んだ」「本当にあつという間に終わってしまった」「これから笑顔で人と接することを心がける」「自分を内面から見つめなおすことが大切だと思った」という感想が寄せられ、今回のマナー講習を「受講して良かった」との回答は98%に上りました。

就職委員会では、企画の充実と強化を図りながら、今後もさまざまな場面をとらえて、学生たちの就職活動を支援していきたいと考えています。

栄養教諭の免許制度化と養成について —栄養教諭養成にかかる教職課程設置の取り組み—

栄養学科学科長 荒川 義人

「栄養教諭」とは、学校給食の管理と食に関する指導を一体的に担う教諭のことです。教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令案が2004年7月1日に施行され、2005年4月1日より免許制度が発足します。栄養教諭の免許創設の主なねらいは、子どもたちの食生活を改善することにあります。

栄養教諭に期待される仕事の内容としては、児童生徒の食に関する個別相談・指導を行い、生活習慣病の予防や食物アレル

ギーへの対応などがあります。また、身近な教材である「学校給食」や食に関する領域を扱う教科の授業や特別活動などで、学級担任や教科担任と連携・協働しながら栄養や食に関する教育や実践を行います。現在は学校栄養職員が行っている学校給食の管理も、栄養教諭の主要な職務のひとつになります。今後、栄養教諭が社会的に評価され、学校給食実施校や保育所などへの配置が必置となることを期待しております。

ご承知のとおり、これまで短大時代を含めて、札幌市内の小・中学校をはじめとする多くの学校給食現場で活躍する本学科の卒業生は少なくありません。したがって時代の要請に対応して、2005年度からの栄養教諭養成にかかる教職課程の設置を目指し、現在、申請業務に全力で取り組んでいます。

サークル活動

はじまして、スカッシュ部です

栄養学科3年 和作 裕子

はじめまして、スカッシュ部です。スカッシュって何だ?と思った人もいらっしゃると思います。スカッシュはラケット競技の一つで、壁に覆われたコートの中で打ち合いをするおしゃれでハードなスポーツです。ラリーが続いたら、ボールはあちこちに飛び、面白く奥の深いスポーツなので、とても楽しいです。

天使大学ではできたばかりの部ですが、部員一同和気藹々と活動をしています。練習内容は、週1回「天使」練習をしており、他大学の先輩にコーチをお願いして練習を見てもらっています。

こんにちは、硬式テニス部です

栄養学科2年 大渡 崇史

こんにちは、硬式テニス部です。私たちテニス部は、週に1回、夏は屋外のテニスコートで、冬や日の短い春先・秋は体育館で活動しています。練習内容としては、フォア・バックハンドのストローク練習やボレー、スマッシュなどの基礎練習から、それらをステップアップさせた実践的なものや試合形式の練習などバラエティに富んだ飽きのこない練習を心掛けています。

今はまだメンバーが少なく、実習などで皆の予定が合わな

他の曜日は好きな間に練習することができます。練習場所が限られているため大変な部分もあるのですが、他大学との交流の機会もあり、楽しく活動を行っています。

また、いろいろな大会にも出場しています。大きな大会では、昨年、一昨年度とインカレ個人戦、昨年度にはインカレ団体戦にも出場することができました。全国大会になると、やはり強い人たちがたくさんいて勉強になることがいっぱいでした。今度のインカレに向けて、いい成績が収められるように頑張って練習しているところです。

学校との両立で練習時間がなかなかとれないことが多いですが、ときどきスカッシュをすると、かなりの気分転換になっています。スカッシュはテニスの4倍の消費カロリーがあると言われていて短時間でダイエット効果も!期待できます。その他にも、練習や試合に出ると、たくさんの人たちとも知り合うことができます。スカッシュを楽しみに来ている人ばかりなので、ぜひ皆さんも楽しいスカッシュを体験しにきてください!お待ちしております。

かたたり、あるいは自分を含めてテニス経験が浅い人が大部分なため、試合形式を行ってもラリーが続かなかったり凡ミスが多くなったりとなかなか大変な状況ですが、皆が少しずつ上達し、卒業までにはある程度打てるレベルになれば、そして皆がテニスを楽しんでもらえるような部活にしたいと考えています。

今後の活動内容については未定ですが、メンバーが増えればテニス以外にも色々なイベントを催したいと思っていますし、希望者がいれば軟式テニスとの兼ね合いも考えています。とにかく、日頃の運動不足やストレスを解消できる、皆にとって楽しい場であることを目指して、部員全員で試行錯誤しながらよりよい部活を創っていきたいと思っています。

ぐにテンポを中心) することができました。

演奏会を開きに(観に?)来てくださった先生方、OGの方々、友人など、多くの方々に大好評のうちに無事に(!?)終わることができました。会場が7号館4階で聴衆の少なさを心配しましたが、そんな心配は杞憂に終わりました。

部員の中には、少々言動の荒い者や控えめ過ぎる者、練習中何かしてかず者、笑いを誘う場を盛り上げる者など多彩な(?)メンバーですが、皆仲が良く、一生懸命です。顧問の小林千代先生、吾妻知美先生をはじめとした多くの先生方から温かい声援をいただきながら、迷惑をかけながら、問題を抱えながら……、これから11月の演奏会に向けて精進していくまでの、是非応援をよろしくお願ひいたします。箏曲部は多くの方々に支えられている部であることを嬉しく感じています。



はこのコーナーに掲載をいたしましたが、次号以降、誌面に登場します。どうぞよろしくお願ひいたします。

はじまして、こんにちは。

誌面に温かみと和みを付加する写真やカットは、本学の教職員の手によるものです。写真については第1号から本学教

職員が、カットについては第6号より本学教授片桐千明先生の作品を掲載してきました。本号より新たなメンバーが加わり、誌面に彩りを添えていくことになりました。本学教務課北川真弓さんの写真です。趣味で、仕事の傍ら、写真を撮る活動を行っています。今回



2003年度決算(2003年4月1日から2004年3月31日まで)

天使大学・比較資金収支計算書(決算額)

(単位:千円)

収入科目	2003年度	2002年度	対前年度増減	支出科目	2003年度	2002年度	対前年度増減
学生生徒等納付金収入	1,044,253	846,358	197,895	人件費支出	740,885	631,946	108,939
手数料収入	28,981	28,100	881	教育研究経費支出	159,460	129,634	29,826
寄付金収入	17,778	5,373	12,405	管理経費支出	68,222	49,107	19,115
補助金収入	181,054	144,625	36,429	借入金等返済支出	10,000	10,000	0
資産運用収入	4,858	4,693	165	施設関係支出	354,270	5,905	348,365
事業収入	1,063	1,497	△434	設備関係支出	85,021	42,801	42,220
雑収入	60,045	13,168	46,877	資産運用支出	0	721,000	△721,000
前受金収入	599,615	573,570	26,045	その他の支出	20,844	48,699	△27,855
その他の収入	815,942	12,378	803,564				0
資金収入調整勘定	△621,964	△493,430	△128,534	資金支出調整勘定	△16,249	△12,296	△3,953
前年度繰越支払資金	441,525	931,989	△490,464	次年度繰越支払資金	1,150,697	441,525	709,172
収入の部合計	2,573,150	2,068,321	504,829	支出の部合計	2,573,150	2,068,321	504,829

天使大学・比較消費収支計算書(決算額)

(単位:千円)

収入科目	2003年度	2002年度	対前年度増減	支出科目	2003年度	2002年度	対前年度増減
学生生徒等納付金	1,044,253	846,358	197,895	人件費	746,170	634,469	111,701
手数料	28,981	28,100	881	(内退職給与引当金繰入額)	(59,141)	(8,362)	(50,779)
寄付金	20,769	9,816	10,953	教育研究経費	232,920	201,229	31,691
補助金	181,054	144,625	36,429	(内減価償却額)	(73,460)	(71,595)	(1,865)
資産運用収入	4,858	4,693	165	管理経費	72,202	53,138	19,064
事業収入	1,063	1,497	△434	(内減価償却額)	(3,980)	(4,030)	(△50)
雑収入	60,045	13,168	46,877	資産処分差額	1,446	2,689	△1,243
帰属収入合計	1,341,023	1,048,257	292,766	徴収不能額	340	0	340
基本金繰入額合計	△462,724	△77,573	△385,151	消費支出の部合計	1,053,078	891,525	161,553
消費収入の部合計	878,299	970,684	△92,385	当年度消費収入超過額	△174,779	79,159	△253,938

天使大学・比較貸借対照表(2004年3月31日現在)

(単位:千円)

	2003年度	2002年度	対前年度増減		2003年度	2002年度	対前年度増減
資産の部				負債の部			
固定資産	2,790,715	3,221,362	△430,647	固定負債	245,430	240,138	5,292
有形固定資産	2,630,695	2,267,298	363,397	退職給与引当金	245,366	240,081	5,285
土地	438,083	438,083	0	長期預り金	64	57	7
建物	1,747,116	1,443,497	303,619	流動負債	657,661	628,693	28,968
構築物	29,175	27,788	1,387	短期借入金	0	10,000	△10,000
教育研究用機器備品	222,817	182,302	40,515	未払金	16,248	12,296	3,952
その他の機器備品	11,525	12,692	△1,167	前受金	599,615	573,570	26,045
図書	181,979	162,936	19,043	預り金	41,798	32,827	8,971
その他の固定資産	160,020	954,064	△794,044	負債の部合計	903,091	868,831	34,260
電話加入権	384	384	0				
敷金保証金	51	0	51	基本金の部			
長期貸付金	19,585	13,680	5,905	第1号基本金	3,407,114	2,956,388	450,726
退職給与引当特定預金	10,000	10,000	0	第3号基本金	20,000	20,000	0
運営準備引当特定預金	0	800,000	△800,000	第4号基本金	66,000	54,000	12,000
減価償却引当特定預金	110,000	110,000	0	基本金の部合計	3,493,114	3,030,388	462,726
第3号基本金引当資産	20,000	20,000	0				
流动資産	1,201,344	448,490	752,854	消費収支差額の部			
現金預金	1,150,697	441,526	709,171	翌年度繰越消費支出超過額	404,146	229,367	174,779
未収入金	48,054	6,004	42,050	消費収支差額合計	△404,146	△229,367	△174,779
短期貸付金	2,285	960	1,325				
前払金	173	0	173				
仮払金	135	0	135				
資産の部合計	3,992,059	3,669,852	322,207	負債の部基本金の部及 消費収支差額の部合計	3,992,059	3,669,852	322,207

日本カトリック教育学会第28回全国大会が 本学を会場に開催されました

さる9月11日(土)・12日(日)、本学を会場に、日本カトリック教育学会第28回全国大会が、大会テーマ「いま、生と死の教育ーいかに学びいかに伝えるかー」のもと、開催さ

れました。基調講演、シンポジウム、自由研究発表など、2日間にわたる多彩なプログラムが展開され、盛会のうちに終わりました。

第6回 日本私立看護系大学協会セミナーが 開催されました。

平成16年度の標記セミナーが、北海道の3大学(天使大学、北海道医療大学、日本赤十字北海道看護大学)の協働による企画・運営のもと、開催されました。

今年度のセミナーでは、近年その重要性が指摘されている「看護倫理教育」を取り上げ、ジョイス・トンプソン博士(国際助産師連盟理事長、天使大学大学院助産研究科教授)による基調講演「看護基礎教育における倫理教育」、ワークショップなどのプログラムが展開されました。

第6回日本私立看護系大学協会セミナー 「看護における倫理教育ーいのちの尊厳とジレンマの視点からー」

期日 2004年10月22日(金)・23日(土) 会場 KKRホテル札幌(札幌市中央区北4条西5丁目)

主催 日本私立看護系大学協会 企画 天使大学 北海道医療大学 日本赤十字北海道看護大学

ごくろうさまでした

看護学科教授	松宮 英視
看護学科教授	深澤 華子
看護学科講師	園部 真美
看護学科講師	矢野 理香
栄養学科教授	小林 則子
栄養学科教授	土門恭仁子
栄養学科教授	中川 光二
事務局学生課長	内山 昌子
事務局図書課長	山本 敏子
事務局財務課主幹	笠井 淑章

あたらしくスタッフになりました

看護学科教授	瀧 断子
看護学科助教授	久川 洋子
看護学科講師	浅井さおり

看護学科講師	今崎 裕子
栄養学科教授	石川 紀子
栄養学科教授	佐野 文男
栄養学科教授	平井 克哉
栄養学科助教授	高野 良子
栄養学科講師	木谷 信子
栄養学科講師	長谷部幸子
大学院教授	ジョイス・トンプソン
大学院教授	リリー・シャ
大学院教授	柳原真知子
大学院教授	園生 陽子
大学院助教授	杉浦 恵子
大学院講師	伊藤久美子
大学院講師	本宿美砂子
大学院講師	津田万寿美
総務課員	橋本 具

教務課員	和田 智美
学生課員	中山 早苗
図書課員	青木 真代
図書課員	竹田 昌代
図書課員	山門 りえ

2004年度在籍者数(2004年9月15日現在)

学科名	学年	人 数
看護学科	1年	90
	2年	91
	3年	97
	4年	90
栄養学科	1年	97
	2年	93
	3年	109
	4年	97
大学院		27

編集後記

学報第8号をお届けします。大学の開設からまる4年。本学は、2004年3月に初めての卒業生を送りだすことができました。初めての卒業生の方々が、社会のさまざまな場所で頑張っている様子をお伝えできることは、編集冥利につきる喜

びを感じております。4月には、日本で最初の専門職大学院(助産研究科)が開設されました。大学・大学院のさまざまな動きをキャッチして発信できる学報でありたいと編集に寄せる思いを新たにしております。読者諸氏の皆さまからの学報へのご意見ご要望をお待ちしております。

(広報委員会 黒川・青木)